

## カンキツ新品種「ありあけ」の特性

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

### 研究のねらい

本県では、温州ミカンを除き、年内に本来の成熟期を迎える品種は極めて少なく、完熟前の出荷となるため品質面の問題は免れなかった。

そこで、年内に完熟し、出荷の可能な優良品種の選定を行った。

### 研究の成果

#### 1. 来歴

「ありあけ」は農林省果樹試験場口之津支場において、「清家ネーブル」を母親とし、「クレメンティン」を父親とした交雑実生である。

#### 2. 特性

##### (1) 樹性

樹姿は開張性、樹勢はやや弱く、枝梢が密生し、短い刺が多発する。高接樹の樹冠隔大は比較的良好であるが、カラタチ台を使った次代では生育が劣る。葉形は披針形で未結果期間は比較的大きいが、結果期にはいと次第に小型化する。

##### (2) 結実性

花序は単性で一部総状花を形成する。花粉量は少ない。単易結果性が強く、無核果率が高く、有核果の場合でも含核数は極めて少ない。

##### (3) 果実特性-1

果実の大きさは結実当初 150g 程度であるが、樹勢の低下とともに小型化し、100g 前後となる。玉揃いはやや悪い。果形は球形でネーブルに似る。

##### (4) 果実特性-2

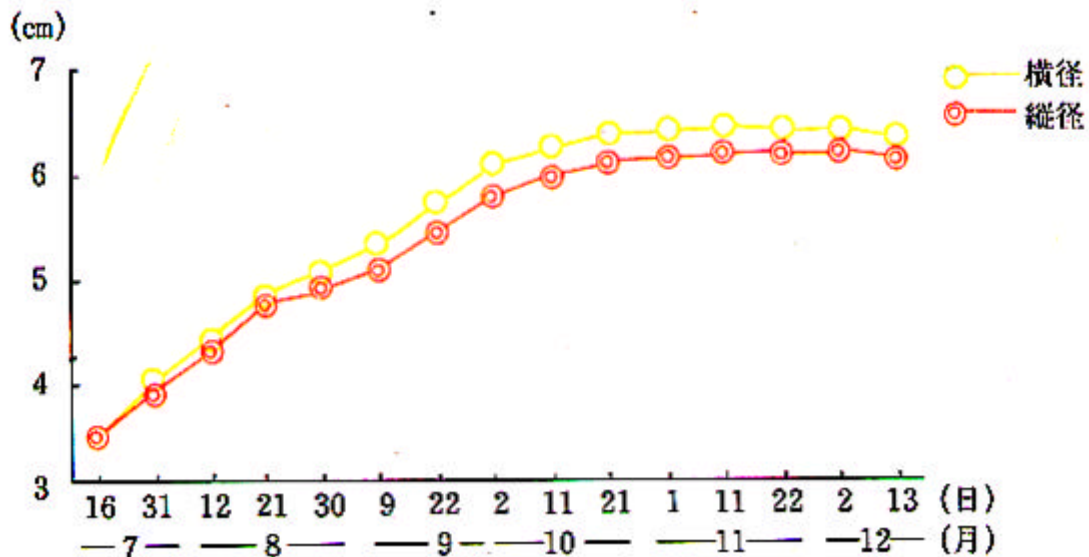
果皮は滑らかで濃橙色を呈し、着色は 10 月上旬・中旬より始まり、11 月上旬・中旬には完全着色となる。果皮は薄く、剥皮性はネーブルに比べ良く、オレンジとクレメンティンの香りを有する。

##### (5) 果実特性-3

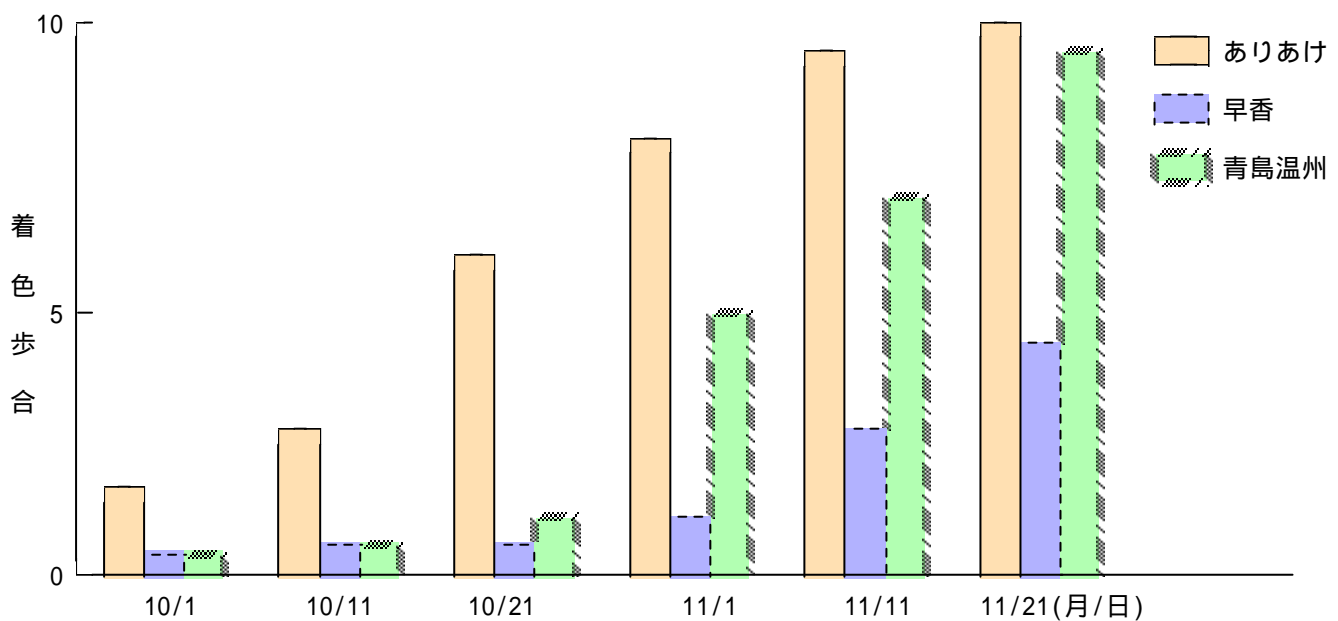
裂果は生育期間中の果実にみられる。病害耐性はそうか病には強いが、かいよう病にはやや弱い。果肉はネーブルに比べ柔軟多汁で、じょうのう膜も薄い。糖度は 12 月中旬で 12 度程度、クエン酸は 0.7 %前後となり、減酸が早く、年内出荷が可能である。

#### 3. 栽培上の留意点

樹勢が弱く樹体・果実の生育が劣るため、樹勢の維持向上を図る。また果皮が薄く劣化しやすいため、乾燥のひどい場合には灌水等の対策が必要である。



第1図 果実の生育



第1図 果皮着色歩合の推移

表1 果実品質調査

項目 / 系統名	採収月旬	平均果重	果肉歩合	果汁歩合	糖度	クエン酸	可溶性固形物	甘味比
ありあけ	11・上	141.6	80.2	73.0	11.0	1.24	12.45	10.04
	・中	141.9	82.7	70.6	12.0	1.11	13.25	11.94
	12・上	131.5	78.8	69.6	13.3	0.90	14.77	16.41
早香	11・上	129.2	78.1	68.1	10.1	1.29	11.22	8.69
	・中	155.6	77.5	67.8	11.6	1.05	12.74	12.13
	12・上	138.2	76.7	67.7	12.1	0.85	13.53	15.92
青島温州	11・上	118.5	79.0	74.8	10.9	1.34	12.14	9.06
	・中	138.1	75.7	74.8	11.7	1.22	12.99	10.64
	12・上	133.5	76.5	73.6	12.6	1.10	13.96	12.69